

28M-am08S

ヒオウギ (*Belmacanda chinensis*) 種子の神経栄養因子様活性物質の探索研究
○岩瀬 瑠美¹, 原田 研一¹, 久保 美和¹, 福山 愛保¹ (¹徳島文理大薬)

【目的】アヤメ科アヤメ属に属するヒオウギ (*Belmacanda chinensis*) は山野の草地や海岸に自生する多年草で、風邪や喘息、頭痛などに効能があるとされている。当研究室では以前にヒオウギの成分研究を行い、抗アレルギー作用物質を有するベラマカンダキノン類を見出しているが、神経栄養因子活性については検討していなかった。今回、ヒオウギ種子部の MeOH 抽出物に PC12 細胞の分化誘導活性が認められたので活性成分の探索を行った。

【方法】ヒオウギ種子の MeOH 抽出物をシリカゲル、セファデックス LH-20 クロマトグラフィー、HPLC で分離精製した結果、新規トリテルペン **1**, **2** および新規ベンゾキノン **3**, 芳香族化合物 **4** の単離に成功した。 **1**~**4** の構造は、2D NMR の解析により決定した。単離化合物の PC12 細胞に対する活性については現在検討中である。

